

県内企業景気動向調査

結果の概要

調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内景気の動向について把握するために実施した。

調査の方法

オンライン・アンケート(761社)並びにヒアリング(28社)。
オンライン・アンケートの集計方法

すべての質問項目についてDI(Diffusion Index)値を求める。たとえば、各社の業況を示す「自社の業況DI値」の算出方法は次の通り。

「自社の業況DI値」=(「良い」と回答した企業の割合)
 - (「悪い」と回答した企業の割合)

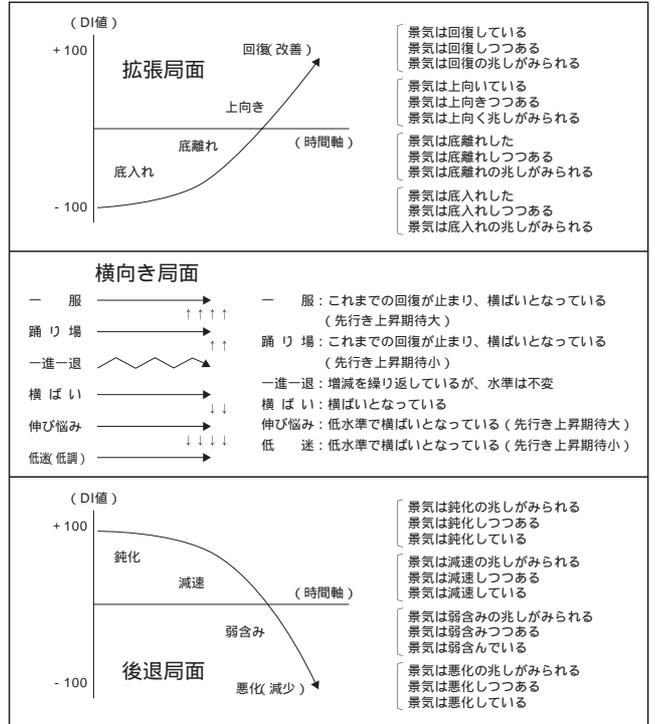
調査時点

オンライン調査:平成17年5月9日(月)~20日(金)
 ヒアリング調査:平成17年5月23日(月)~6月9日(木)

地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上市市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石町
最上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、藤島町、羽黒町、榊引町、三川町、温海町、朝日村
庄内飽海	酒田市、八幡町、遊佐町、松山町、平田町

判断用語の凡例



景気の天気図

天気図とは、地域別・業種別の景気動向を見比べるため、自社の業況DI値(前期比)を5段階に分けて図解したもの。「天気図の凡例」をご参照のこと。

天気図の凡例

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
DI 30	30 > DI 10	10 > DI 10	10 > DI 30	30 > DI

(前回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

(今回調査)

	全業種	建設業	製造業	卸・小売業	サービス業
山形県					
村山南部					
村山北部					
最上					
置賜					
庄内田川					
庄内飽海					

全業種（回答企業454社、回答率59.7%）

現状判断：弱含んでいる。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が前回より3.9ポイント悪化して 7.1となるなど、弱含んでいる。一部では、全国的な景気の回復が言われ始めたが、本県との景気にいくぶんギャップが生じつつある。

業種別では、製造業で回復に一服感が見られたほか、卸・小売業でわずかに底離れの兆しが見られた。ただ、建設業とサービス業は引き続き低調であった。

来期見通し：低調ながらも横ばいで推移する。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が1.8ポイント改善して 5.3となっており、低調ながらも横ばいで推移する見込み。

業種別では、製造業で上向き見込みだが、建設業でさらなる悪化が見込まれている。ただ、卸・小売業を中心に個人消費の回復感も広がりつつあり、本格的な回復への期待も高まっている。

地域別の動向：好調な村山でやや減速感。

地域別では、これまで「好調な村山地域」と「低調なその他地域」とに分かれていたが、ここにきて村山南部の回復に一服感が出たほか、村山北部でも回復が鈍化しており、地域間の温度差は薄れつつある。

先行きの見通しは、村山南部でマイナスに転じると見込まれているほか、概ね他の地域でも低調に推移する見込み。

（前期比） （調査時点）	自社業況	売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
H17.02	3.2	4.1	17.3	1.4	17.0
H17.05	7.1	12.1	22.9	1.1	14.1
H17.08 （見通し）	5.3	10.8	15.0	3.7	20.7

建設業（回答企業104社、回答率57.1%）

現状判断：低迷している。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が前回より0.4ポイント改善したものの、 27.0と依然として低迷している。

住宅建築を中心に民間工事は堅調に推移しているが、依然として公共工事は低迷しており、全般的な受注環境を改善するまでには至っていない。手持工事高DI値は8.6ポイント悪化し、 39.5であった。

来期見通し：悪化が見込まれる。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が 31.8となっており、業況のさらなる悪化が見込まれる。

特に、今期において十分な手持工事高が確保できなかったことから、来期への繰り越し工事もさほど見込めないこと、また、4月以降の公共工事の発注についても、需給ギャップを解消できるほどのボリュームを見込めないことなどが主な原因。

地域別の動向：最上で悪化傾向にある。

地域別では、最上における自社の業況DI値が前回より16.1ポイント悪化して 29.4となっており、悪化しつつある。また、置賜と庄内飽海ではDI値がそれぞれ 37.5、 36.9となっており、特に低迷している。

先行きの見通しは、最上、置賜、庄内田川でDI値が 30.0を下回っており、6地域の中でも特に不振が予想されている。

（前期比） （調査時点）	自社業況	業界業況	完成工事高	営業利益	手持工事高	人員・人手	資金繰り
H17.02	27.4	54.7	28.6	45.3	30.9	21.5	36.9
H17.05	27.0	61.5	29.8	41.4	39.5	14.5	25.0
H17.08 （見通し）	31.8	60.6	38.4	45.2	40.4	12.5	40.4

← 景気動向を図解!! →

製造業（回答企業133社、回答率65.5%）

現状判断：回復に一服感。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が前回より20.9ポイント悪化して 3.7となっており、これまでの業況回復に一服感が見られる。

全体的に売上が伸び悩む中で在庫に過剰感を抱えているなど、いくぶん調整期に入っていることもあり、売上高DI値は前回より26.2ポイント悪化の 6.0、在庫状況DI値は7.0ポイント悪化の 12.0であった。

来期見通し：上向き兆しが見られる。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が15.8ポイント改善して12.1となっており、再び上向き見込み。

調整期に入っている電機機械関連で底入れの兆しが見られつつあること、自動車関連も引き続き好調を維持すると思われることなどが主な原因。ただ、県内需要への依存度が高い飲料や食料品等に関してはやや盛り上がり欠けなど、一部で低調に推移する見込み。

地域別の動向：村山南部、最上で一服感。

地域別では、村山南部における自社の業況DI値が34.6ポイント悪化の3.5、最上で46.4ポイント悪化の25.0となっており、これまでの回復基調にやや一服感が見られる。

来期の見通しは、各地域とも回復予想となっているが、中でも庄内飽海で33.3ポイント改善して22.2となっており、最も高い改善予想となっている。

（前期比） （調査時点）	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
H17.02	17.2	6.0	20.2	2.0	47.4	5.0	7.1	3.1
H17.05	3.7	13.5	6.0	15.0	43.6	12.0	3.8	5.3
H17.08 （見通し）	12.1	8.3	3.0	4.5	36.1	26.3	5.3	18.0

卸・小売業（回答企業110社、回答率59.5%）

現状判断：底離れの兆しが見られる。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が前回より5.8ポイント改善して1.8となっており、底離れの兆しが見られる。

昨年4月に導入された消費税総額表示方式等の影響による消費の落ち込みもいくぶん緩和され、徐々に消費マインドが回復しつつある。売上高DI値は 1.9だったが、前年同期比では2.8であった。

来期見通し：一進一退で推移する見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が4.5ポイント悪化して 2.7となっており、一進一退で推移する見込み。

消費マインドに回復の兆しが見られつつあるものの、本格的な回復につながるまでには今しばらく時間を要するという慎重な見方が多く、そのための一時的な下振れと思われる。

地域別の動向：村山南部で上向きしている。

地域別では、村山南部における自社の業況DI値が11.0ポイント改善して18.7となっており、景気が上向きしているほか、庄内田川のDI値も28.6ポイント改善して0.0となっており、底入れしつつある。

来期の見通しは、各地域とも悪化予想となっているが、村山南部ではなんとかプラスを維持する見込み。DI値は6.2であった。

（前期比） （調査時点）	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員・人手	資金繰り
H17.02	4.0	29.4	4.0	6.7	25.3	12.0	1.3	10.6
H17.05	1.8	23.7	1.9	15.4	34.5	6.3	8.2	15.4
H17.08 （見通し）	2.7	21.8	6.4	6.3	25.4	32.8	3.7	15.5

各業種別分析

現在とこれからを徹底調査!!

サービス業（回答企業107社、回答率56.0%）

現状判断：低調ながらも横ばいで推移。

業況は、自社の業況DI値（前期比）が前回より1.3ポイント改善して 1.0となっており、低調ながらも横ばいで推移している。

对个人向けサービス業も对事業所向けサービス業も、全般的に需要不足が続いており、客単価の下落が収益を悪化させている。売上高DI値は 13.1、営業利益は 22.4であった。

来期見通し：弱含みつつも横ばいで推移する見込み。

業況の先行き見通しは、自社の業況DI値が2.8ポイント悪化して 3.8となっており、弱含みつつも横ばいで推移する見込み。

物流量自体が堅調であることや大型連休の影響によって観光関連需要の増加が見込めるといったプラス材料もあるが、いずれも例年並みで季節変動の範囲内にとどまる模様。

地域別の動向：庄内田川の改善目立つ。

地域別では、庄内田川における自社の業況DI値が35.8ポイント改善して14.3となっており、6地域の中でも改善が顕著だった。また、前回から7.2ポイントほど回復が鈍化したが、依然として村山南部でプラスの水準を維持している。DI値は5.0であった。

来期の見通しは、村山南部と庄内で悪化予想。その他は概ね改善の予想となっている。

（前期比） （調査時点）	自社業況	業界業況	売上高	営業利益	人員・人手	資金繰り
H17.02	2.3	27.0	14.6	21.3	5.6	19.1
H17.05	1.0	28.0	13.1	22.4	5.6	13.1
H17.08 （見通し）	3.8	28.0	5.6	7.4	6.6	10.3

特別調査：夏季ボーナスの支給動向について

夏季ボーナス支給の動向について、「増やす」と回答した企業の割合は、前年夏季比でみて7.7%となっており、「減らす」と回答した企業の割合30.2%を大きく下回った。また、前年冬季比でみても「増やす」と回答した企業の割合は6.6%にとどまり、「減らす」と回答した企業の割合33.5%を下回った。

業種別にみると、相対的に「増やす」と回答した企業の割合が多い業種は製造業と卸・小売業であった。製造業で「増やす」と回答した企業の割合は、前年夏季比10.5%、前年冬季比6.8%であったほか、卸・小売業で「増やす」と回答した企業の割合は、前年夏季比10.0%、前年冬季比10.0%であった。

【夏季ボーナス支給動向】

（単位：%）

	前年夏季比			前年冬季比		
	増やす	さほど増やさない	減らす	増やす	さほど増やさない	減らす
全業種	7.7	62.1	30.2	6.6	59.9	33.5
建設業	1.9	57.7	40.4	3.8	50.0	46.2
製造業	10.5	62.4	27.1	6.8	66.9	26.3
卸・小売業	10.0	63.6	26.4	10.0	60.9	29.1
サービス業	7.5	64.5	28.0	5.6	59.8	34.6

（注）このレポートは、弊社の会員向けサービスの一環として実施している「県内企業景気動向調査」（確報版）の概要です。詳しい内容をご覧になりたい方は、会員専用ホームページ（<http://www.sfsi.co.jp/>）へアクセスしてください。

なお、レポートの内容に関するご質問は下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

研究開発グループ 熊本・齋藤（信）

TEL：023(626)9017

e-mail：fns@sfsi.co.jp